

高次脳機能障害のリハビリテーション

第1回 「高次脳機能障害が難しい理由は…？」

Hi、みなさん。昨年、英国で高次脳機能障害のリハを勉強する機会に恵まれました。このコラムでは、その経緯も交えながら、高次脳機能障害のリハについて数回に分けて説明をさせていただこうと思います。

よく高次脳機能障害は難しいと言われます。これはなぜか。幾つか理由がありますが、最大の理由は従来の考え方は処理ができず、発想の転換が必要になるからだと思います。例えば、代表的な疾患である脳外傷者の場合、ざっと挙げて以下のような様々な症状を伴います；注意障害、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害、身体の症状、コミュニケーションの問題、意欲の問題、不安、などなど。加えて、家族や職業の状況、受傷前の状態や性格も無視できません。そして、これらの症状は相互に作用をするため、それが状況をさらに複雑にします。リハを考える上では、各々の症状を良くすることだけを考えるのでは全く足りず、これが高次脳機能障害のリハを難しくしている大きな原因になっています。

医学は多数の要因が絡む問題（これは答が一つではない問題と言い換えることもできます）を考えることには慣れてなく、これまではむしろ避けてきたところがありました。ただ、いよいよこうした問題にも焦点が当てられるようになってきています。例えば、慢性腰痛なども（慢性の腰痛は原因が一つでは全くないので）近年は同じような考え方をするそうです。従来の「一つの原因に対処していく」考え方では対応できない分野があることを知っていただけましたら嬉しいです。（to be continued）

（青木 重陽）

